

市民主導型環境保全意識を決めるのは？

朴 堯星 データ科学研究系 准教授

【はじめに】

環境問題に対する受け止め方が多様化してきた今日、市民一人一人も環境問題の当事者としての意識を持ち、市民のライフスタイルを見直していくことが求められる。しかし、環境配慮行動を進めるにあたって、社会のためという意識とは裏腹に、環境配慮行動を行うことがコストである。そのため、環境配慮行動を促進させる要因の一つとして、規範意識の重要性が指摘されている。例えば、規範活性理論を提唱したSchwartz(1977)によれば、協力行動は、まずその行動を行うことが必要とされるという「重要性認知」、協力すべきであるという「道徳意識」という一連の心理的メカニズムによって喚起される。ただし、東アジアの諸国のように、様々な環境問題が国境を越えて深刻化している現在では、各国の文化や価値観、さらには経済発展の度合いの違いによって環境意識が変動する可能性がある。

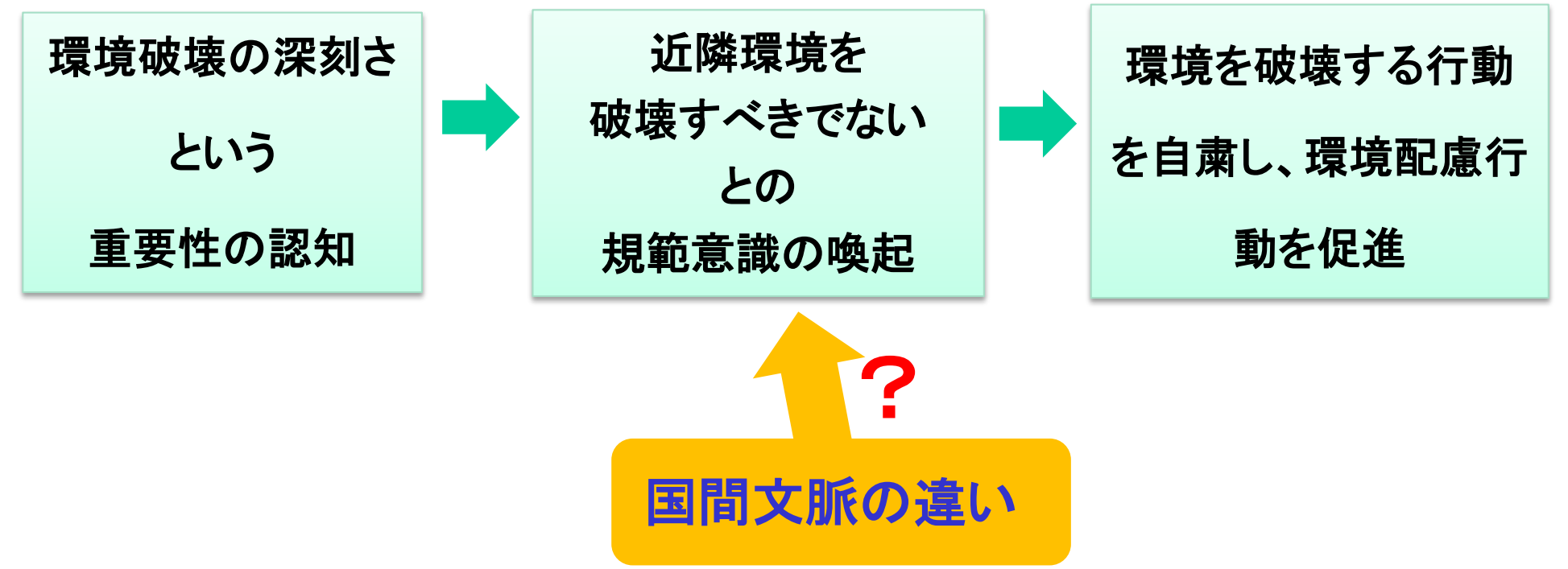


図1 本研究の概念図

【データ】

「東アジアの文化・生活・環境に関する意識調査—日韓中調査—」の調査のデータ個別面接聴取法による。日本全国、韓国全国、中国本土の北京市、杭州市に居住する、無作為抽出した成人男女を対象。

【結果】

(1) 記述統計量

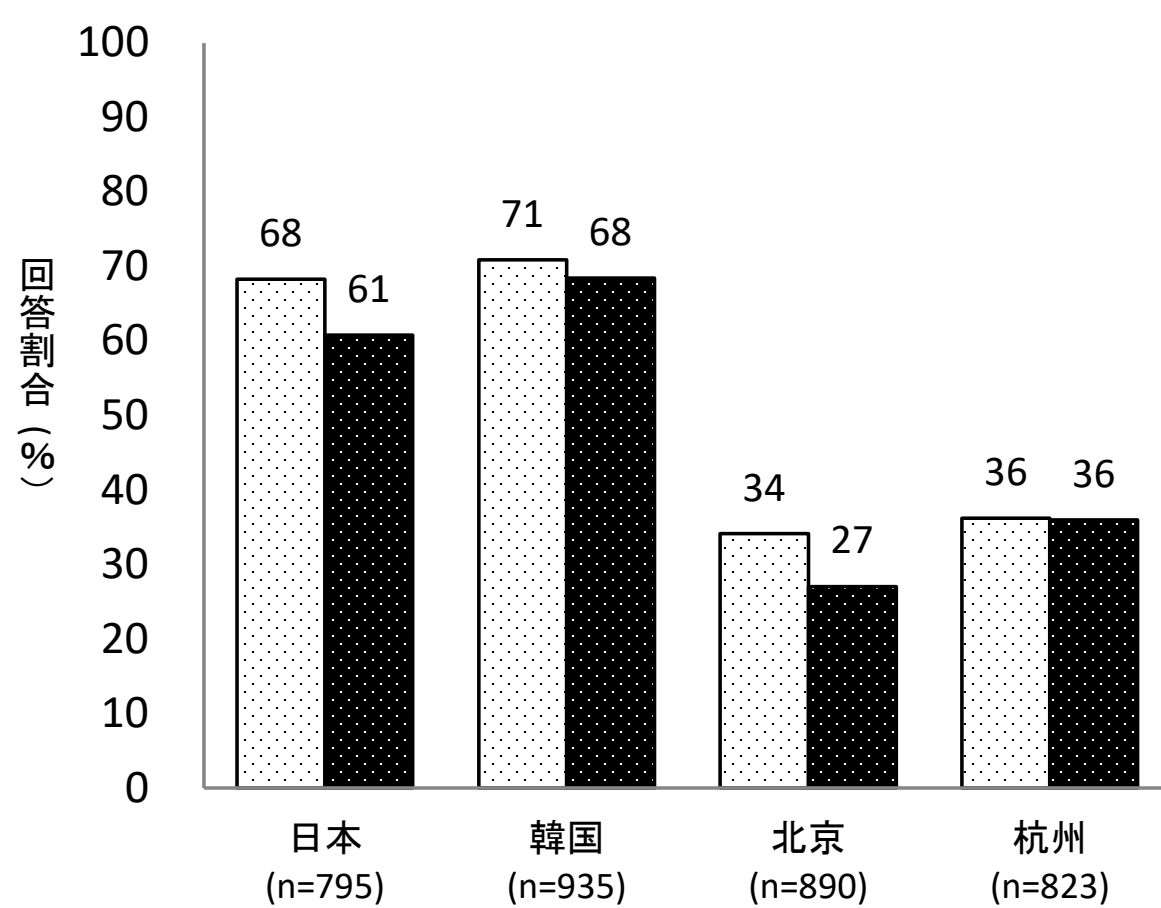


図2 国・地域および地球全体の環境変化について (否定的な回答)

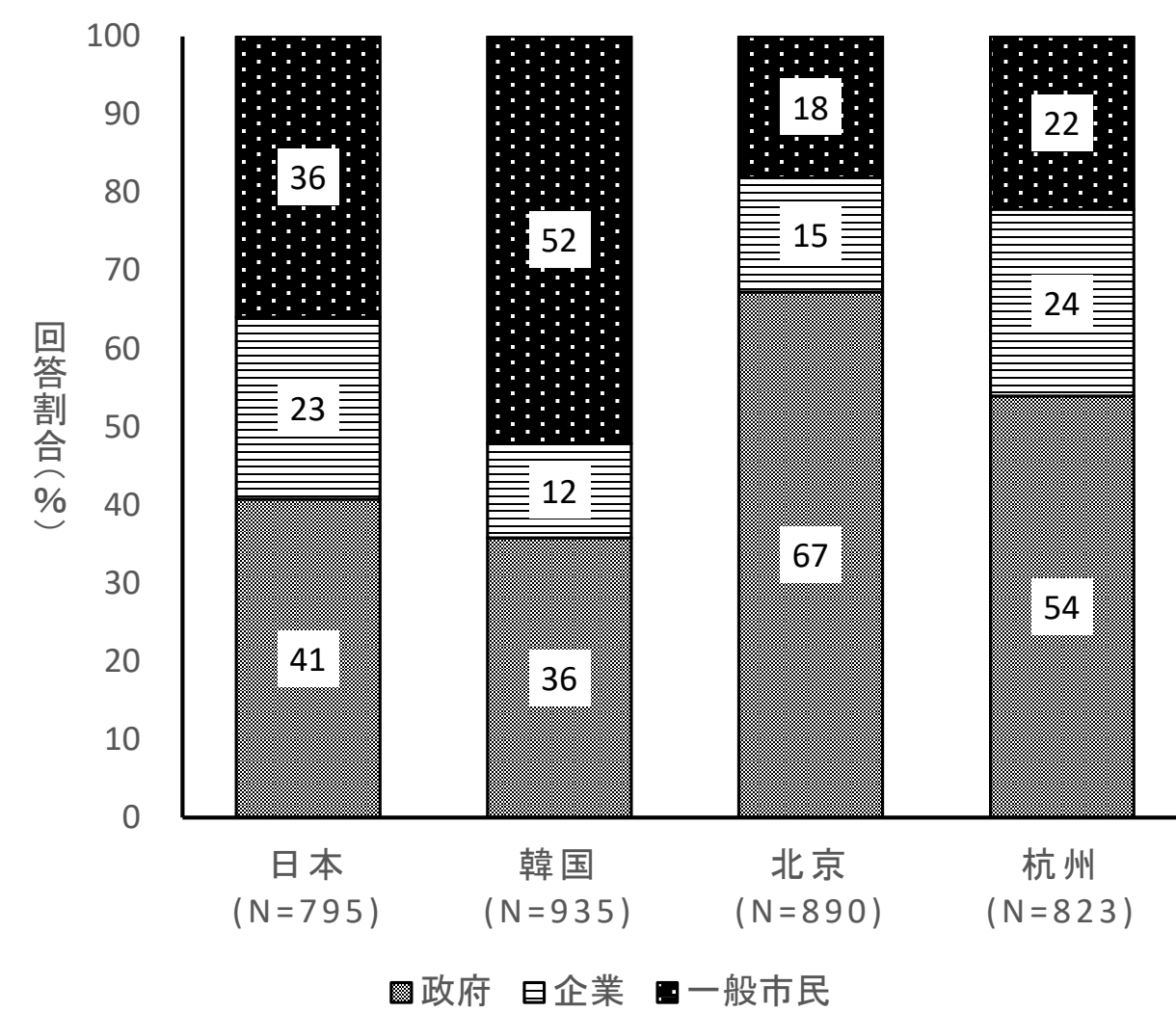


図3 環境保全の担い手について

表1 構成概念および測定項目

構成概念	測定項目
重要性認知	x1 私たちを取り巻くさまざまな状況、例えば空気、水、土壌、植物や動物などを全体的に見て、地球全体の環境は、ここ数年間に良くなったと思いますか。それとも悪くなったと思いますか。
	x2 私たちを取り巻くさまざまな状況、例えば空気、水、土壌、植物や動物などを全体的に見て、日本(我が国)全体の環境は、ここ数年間に良くなったと思いますか。それとも悪くなったと思いますか。
規範意識	x3 近年、地球規模の環境問題への対応について、経済成長がある程度遅くなくても、環境保護が最優先されるべきだ
	x4 近年、地球規模の環境問題への対応について、産業先進国は途上国よりも環境問題に責任がある
	x5 近年、地球規模の環境問題への対応について、地球環境のためには、国境を超えた国際協力が不可欠である
	x6 近年、地球規模の環境問題への対応について、地球環境のためには、技術革新よりも市民の環境配慮行動が重要だ
環境配慮行動	x7 省エネ効果が高く、エコマークのついた商品を購入すること
	x8 ものを捨てないで再利用したり、リサイクルに出すこと
	x9 洗い物、シャワーに水を無駄使いたないよう努力すること
	x10 照明、冷暖房などに使うエネルギーを節約するよう努力すること
	x11 自家用車・タクシーを使わず、バス、電車などの公共交通機関を利用すること
	x12 買い物の時に、レジ袋や包装を断り、買い物袋を持参すること

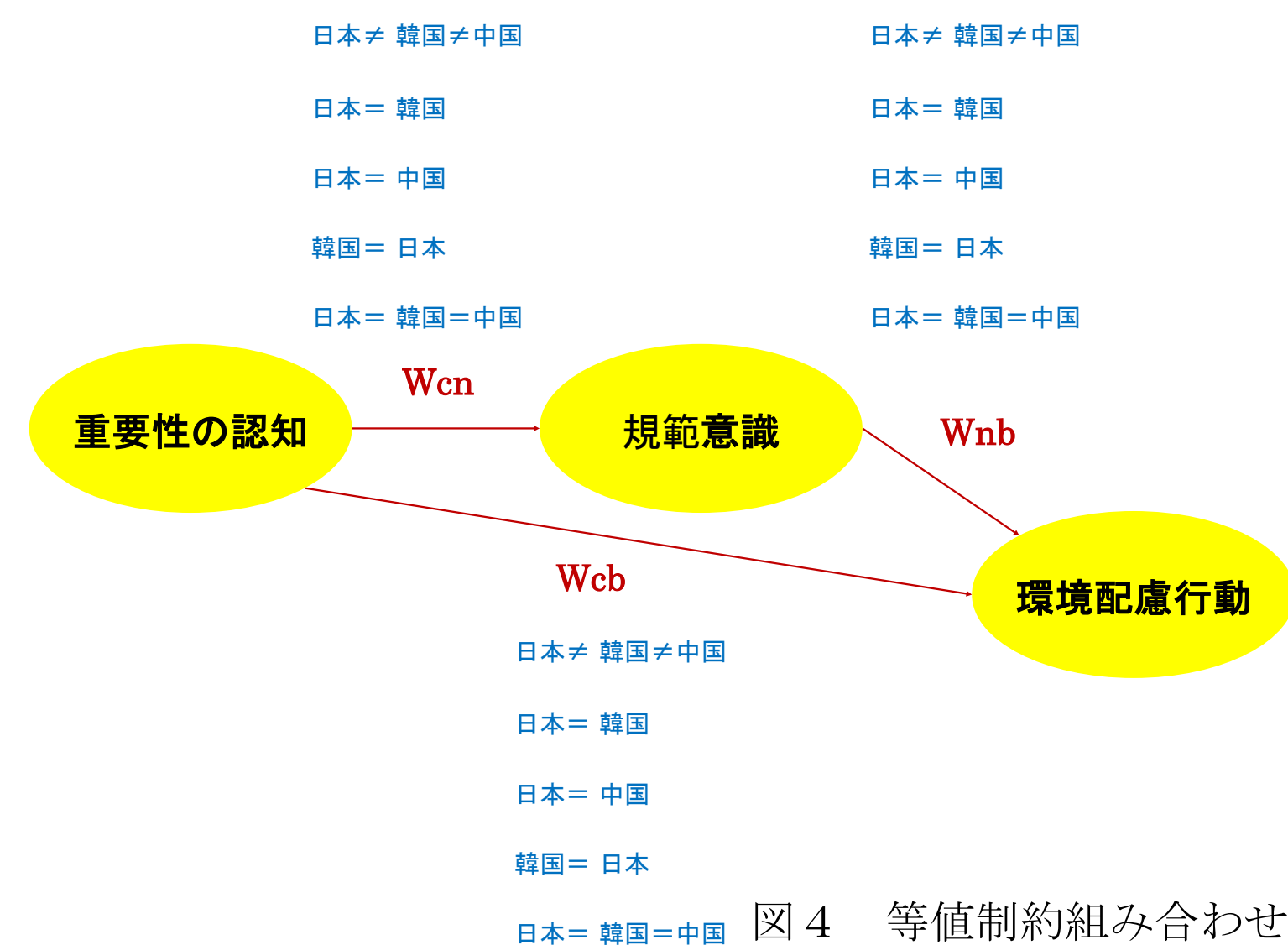


図4 等値制約組み合わせ: 125通り

表2 等値制約モデル一覧および適合度

モデル	3カ国におけるWcn, Wnb, Wcbの制約条件												GFI	AGFI	CFI	RMSEA	RMR	AIC	BCC	x ²	自由度	P
	Wcn(日)	Wcn(韓)	Wcn(中)	Wnb(日)	Wnb(韓)	Wnb(中)	Wcb(日)	Wcb(韓)	Wcb(中)	Wcn(日)=Wcn(韓)	Wcn(日)=Wcn(中)	Wcn(韓)=Wcn(中)										
モデル31	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	449.23	450.45	343.23	112	0
モデル32	○												0.98	0.97	0.97	0.02	0.03	447.58	448.78	343.58	113	0
モデル33	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.04	460.70	461.90	356.70	113	0
モデル34	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	460.27	461.47	356.27	113	0
モデル35	○												0.98	0.97	0.96	0.03	0.04	468.28	469.45	366.28	114	0
モデル36	○												0.98	0.97	0.97	0.02	0.03	446.84	448.05	340.84	112	0
モデル37	○												0.98	0.97	0.97	0.02	0.03	444.93	446.12	340.92	113	0
モデル38	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	456.77	457.97	352.77	113	0
モデル39	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	459.05	460.24	355.05	113	0
モデル40	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.04	465.79	466.96	363.79	114	0
モデル41	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	453.04	454.26	347.04	112	0
モデル42	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	451.35	452.54	347.35	113	0
モデル43	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.04	463.43	464.62	359.43	113	0
モデル44	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	463.27	464.47	359.27	113	0
モデル45	○												0.98	0.97	0.96	0.03	0.04	470.59	471.76	368.59	114	0
モデル46	○												0.98	0.97	0.97	0.03	0.03	451.21	452.40	347.21	113	0

表3 パス係数の差の検定

	Wcn		Wnb		Wcb	
	日本=韓国	日本=中国	日本=韓国	日本=中国	日本=韓国	日本=中国
日本			0.11 **		0.31 **	-0.01
韓国	0.13 **				0.16 **	-0.01
中国	-0.03				0.27 **	-0.29 **
差の検定		3.62 **		-2.58 **		4.60 **

・日本と韓国では、環境問題の危機感に対する重要性の認知が、規範意識の向上を媒介して間接的に環境配慮行動に正の影響を及ぼしている。
 ・一方、中国では、重要性の認知が規範意識には結びつかず、規範意識が直接的に環境配慮行動の向上につながっている。

【参考文献】

鄭 躍軍(2012). 東アジアの文化・生活・環境に関する意識調査—日韓中調査(2010-2011)—, 同志社大学東アジア総合研究センター 研究レポートNo.1.
 朴堯星(2016). 市民主導型環境保全意識の規定因—日本, 韓国, 中国における環境意識の国際比較, 統計数理, 64-1, 123-137.